海老名市立柏ケ谷小学校　学校運営協議会　議事録
（令和５年度　第３回）

１　日時　　令和６年２月 23 日（金）10：00～12：00

２　場所　　海老名市立柏ケ谷小学校　　会議室

３　委員　　山﨑久男委員、志村政憲委員、森山輝男委員、植木文夫委員、中垣洋委員、櫻井信夫委員、松本孝夫委員、大矢和正委員、藤原絵里奈委員、齊藤裕子委員、石井友紀（校長）、姫野珠実（教頭）、青山明裕（教務主任）

【議題】（１）学校生活の様子について
（２）令和５年度「教育活動アンケート」結果の分析と令和６年度の学校経営方針
（３）その他

４　校長挨拶

今回で、学校運営協議会の任期満了となる皆様へ感謝申しあげます。本日が最後の会議となりますが、今年度のまとめと来年度に向けた展望をお伝えし、皆様からの忌憚のないご意見をいただきたい。また、次期学校運営協議会委員としての継続を是非お願いしたい。

５　会長挨拶

本日は、今期最後の会議となる。忌憚のないご意見や質問等いただきたい。学期末で多忙な時期に会を開催していただいた学校に感謝したい。

６　会議の内容

（１）学校生活の様子について

石井校長：・先週、授業参観・懇談会が催され、たくさんの保護者に来校いただいた。今年度最後の授業参観ということもあり、 学習発表形式の学年が多かった。これまで頑張ってきた学習の成果や成長を見ていただくことができたと思う。子ども達は少し緊張した様子も見られたが、いつもよりしっかりした態度で学習していた。
・今後も、保護者に子ども達の様子を見ていただく機会を多く設けていきたい。
・インフルエンザの罹患児童は数名いるが、学級学年閉鎖をするほどではない。

コロナはすっかり収束し、現在罹患している児童はいない。
・今年度の６年生は私学受験者が例年に比べて多く、受験を控え、感染予防のために欠席をしていた児童がいた。進路が決まった児童から通常通りに登校している。卒業式に向けて準備を進めている。

山﨑会長：中学受験者が多くなっているということだが、進学先に傾向等は見られるのか。
青山教務：進学先は多岐にわたっている。
山﨑会長：合格した子、不合格だった子がいると思うが、先生方は他の子ども達も含め、どのような声掛けや配慮をしているのか。
青山教務：受験に関しては、各家庭の方針であるため、学校から深く立ち入ることはない。結果についての言葉かけではなく、これまで頑張ってきた過程を認めてあげることを大切にしている。
志村副会長：中学受験は人それぞれだと思うが、我が家では本人の意志決定を尊重してあげたいと考えている。学校も温かく見守ってくれている。柏ケ谷中学校に進学することを決して否定するのではなく、子どもの意志を後押ししたいという気持ちである。
齊藤委員：自分が続けたいスポーツの関係で、私学をめざす子もいるようだ。
大矢委員：私立受験をする子の家庭はどちらかというと経済的に裕福な感じを受けるが学校としては、どのように感じ取っているか。
青山教務：それは感じない。
山﨑会長：私立に進学すると地域から浮いてしまうという感も否めない。受験に失敗した子は、自分のすべてが否定されたように思う子もいる。否定されたわけではないことを周りの大人が伝えていかなければならない。また、私学受験をした子ども達を含めた子ども同士の関わり合い方について、どう見守っていくかも学校の課題である。
齊藤委員：子ども達は結果については「運」だと言っている子もいる。結果を受け止め、自分が進むべきところへ進んで、そこで頑張るしかないと思っているのではないか。今は進路が異なっても、ＳＮＳでつながっているので、排除されることも、疎遠になることもない。
植木委員：近所の子どもがどこへ進学するかは知り得ない。受験に失敗した子に対して、あたたかな声をかけることもためらうなど、かかわり方の難しさを感じる。
山﨑会長：地域としては、進学先が違っても、どの子も同じように温かく受けとめるということが大事。
松本委員：コロナもインフルエンザも落ち着いているということだったが、他校の様子はどうか。
石井校長：地域によってそれぞれであり、学年閉鎖をした学校もある。
山﨑会長：桜の木を伐採後、子ども達からの反応はいかがなものだったか。
石井校長：子ども達からの反応は特にはない。
齊藤委員：子ども達は、切り株を「基地」や「憩いの場所」と言って、喜んで遊びに使っ

ている。

山﨑会長：桜の木については、倒木の危険性が高いという理由での伐採なので、地域からなぜ切ってしまったのかなどの苦情はないのかもしれない。

石井校長：桜の木がなくなったことで、日影がなくなり、夏場に校庭で活動する際に涼む場所や休憩する場所の確保について、策を考えているところである。

（２）令和５年度「教育活動アンケート」結果の分析と令和６年度の学校経営方針

石井校長：児童、保護者、教職員からの学校教育活動アンケートの結果から分析した課題点をどのように改善し、来年度に生かしていくか。また、柏ケ谷小学校の子ども達をどのように育てていくかをまとめた令和６年度の学校教育方針をお示しする。

【インクルーシブな学校】
・すべての子どもが大切にされる学校
・すべての子どもの学習権が保障される学校
インクルーシブな学校づくりの具現化のために、学校教育目標を受けた３つの柱で学校づくりを進めていく。

① 確かな学力を育成し、共に学ぶ学校

～アンケートの結果から～
◆児童アンケート「学校は楽しいですか」「授業の内容はよくわかりますか」
◆保護者アンケート「学校は子どもの実態を把握した指導を行っている」
これらの設問に対しての否定的な回答を受け、授業の内容がわかり、学ぶ楽しさを感じることで学校生活も楽しくなるのではないかと分析した。よって、授業のさらなる工夫や改善の努力を続けていく。例えば具体的な取組として、ことばを大切にし、ことばの力を育てる教育活動、言語活動を取り入れた授業づくりの研究を進める。

② 誰もが安心安全に過ごし共に育つ学校

～アンケートの結果から～
◆児童アンケート「勉強でわからないことがあったら、だれかにおしえてもらっていますか」「困ったことや悩みがあるときにはだれかに相談していますか」
◆保護者アンケート「学校は、子どものことで相談に適切に応じている」
これらの設問に対しての否定的な回答を受け、児童と教職員が気軽に相談できる関係性にないことや保護者の学校への信頼感がなくなっていることが読み取れる。また、現在の不登校児童の状況を鑑みて次のような取組をしていく。
　例えば具体的な取組として、気軽に相談できる信頼関係づくりや子どもの話を最後まで聴ききるという教職員の意識の醸成、さらには、教育相談コーディネーターの活用や、新たに別室登校支援ルーム「ぽかぽかルーム」の環境整備

をしていく。
～アンケートの結果から～
◆児童アンケート「学校やクラスの決まりを守っていますか」に対して、13.2%の児童が否定的な回答をした。それに関しては、学校が、きまりの意味をきちんと伝えているか。「〇〇しなさい」ではなく、子ども達に考えさせているかという疑問点がある。そこで、来年度は、柏ケ谷小学校のきまりを「自分もみんなも安全で気持ちよく過ごせる学校にしよう」という１つにし、これに反しない中で、学年・学級に応じたルールを子ども達と共に考えていく。
～アンケートの結果から～
◆児童アンケート「掃除を一生懸命にしていますか」◆保護者アンケート「校舎内外の清掃は、ゆきとどいている」に対し、児童は 87%が肯定的な回答であるが、高学年になるほど下がる傾向がある。保護者の清掃に関しての評価は年々下がっている。
　このことから、児童が進んで清掃活動に取り組める工夫が必要だと分析した。具体的な取組として、「きょうだいグループ」による清掃活動として、高学年がリーダーとなり清掃の仕方を教えながら、異学年で協力して学校をきれいにする。このような異学年交流活動はさらに多方面に広げていきたい。

③ たくましく未来を生きる力を育成する学校
～体力テストの結果から～
◆８種目行われた新体力テスト結果の平均値を求めたところ、５．６年生は男女とも平均値を下回っていることがわかった。それを受けて、休み時間に外遊びをしている児童がどれくらいいるかを 12 月の第 2 週（５日間）調べた結果、全校児童のおよそ 34.3%にとどまることがわかった。そこで来年度は、体力の向上をめざした取組や遊びや運動を楽しむ機会を充実させる。
　具体的な取組として、「柏小スポーツ広場」づくりを考えている。校庭で使える遊具を増やし、「身体を動かしたくなる」環境をつくる。さらに、児童の体育委員会主催のスポーツ大会やきょうだいグループでの遊びの交流、地域の方にご指導をいただくスポーツ教室などに発展させたい。

櫻井委員：授業の内容がわからない子が多いというが、わからないという子へはどのような対応をしているのか。
石井校長：児童の「わからないレベル」が様々ではあるが、それによって、別室で個別に指導にあたることもあれば、一斉授業の際にそばに教師が寄り添って支援する等の対応をしている。
櫻井委員：勉強がわかるようになれば、楽しくなる。学校として、どのような手立てをとっていくのか教えてほしい。
石井校長：子どもにとってわかりやすい授業をめざしていく。例えば、より見やすい板書の工夫やよりわかりやすい話し方などを校内研究の中で進めていき、教員の授業力

向上を図る。

山﨑会長：よりよい授業づくりは永遠の課題である。勉強がわからないことをそのままにさせないことだ。分からなくて悩んだら人に聞くという力、人に教えてもらおうとする力、助けを求めることができる力を身に付けさせてほしい。また、児童が助けを求められる雰囲気をつくることも大事である。

櫻井委員：勉強がわかるようになれば、子ども達と先生との信頼関係が深まると思う。

志村副会長：６年生のわが子が社会科の歴史の学習について質問をしてきたときに、教科書を見たが、勉強がわからない子にとって、教科書の内容が厳しいと感じた。YouTubeや漫画の方がわかりやすいし、子どもの興味をひく内容である。先生方も教科書に沿って教えなければいけないというところで苦労されているのではないか。

植木委員：自分が小学生の頃は、小テストのようなもので、前日の学習内容が身についているかを確かめる時間があった。毎日のテストは大変だったが、それを行うことで学力が定着していた。

石井校長：知識や理解の定着を図る手立ても考えていく。

松本委員：勉強ができないから学校が楽しくないとは限らないのではないか。勉強がよくできても学校が楽しくないと感じている子もいる。楽しいか楽しくないかは個人の問題だと思うが、学年別の割合はどのようになっているのか。

　このような質問をすると大人は否定的な回答をしがちである。また、どの学年のどのような学力の子をもつ親が回答しているかもわからない。子どもに中学受験をさせたい親は、学校の授業では物足りないと否定的な回答をするであろう。結果の数字と現状は別物として考えてよいのではないか。

石井校長：高学年になるほど、否定的な回答が増えていく傾向にある。

大矢委員：授業の受け方は、どんな先生に教わるかによって違いがあるのではないだろうか。好きな先生の授業はよく聞く。すべての教科を学級担任が教えているのか。

石井校長：高学年は３人（２人）の担任で教科を分担して、他の学級も指導するといった交換授業をおこなっている。また、音楽や図工は「専科の教員」が授業を受け持っている。

大矢委員：今は多くの子が塾に通っている。それにより学力も様々だろう。サッカーや野球習い事など、行っている、行っていないにより、体力もそれぞれだろう。

植木委員：塾や習い事に通わせている家庭が多く、教育熱心であれば、学校の勉強では物足りなさを感じたり、今以上のことを求めてきたりするではないか。学校は通常の授業をやってくれればよい。

山﨑会長：学校によっては、学級の３分の１の児童が国立・私立を受験するというところもあると聞いている。普段の学習とともに、受験対策の学習はどうなっているのかなど、保護者からの質問もでてくることもあるだろう。学校が家庭にどのように説明し理解を求めていくかが課題である。

中垣委員：「授業の内容がよくわかりますか」の設問に対して、「あてはまる」「ややあてはまる」という答え方では、あいまいな答えになる。「聞き方」を変えることで、結果が変わってくるのではないか。

石井校長：前回の運営協議会で、昨年まであった「ＩＣＴ活用」についてのご指摘があったが、今年度の時点で、一人一台の端末活用がずいぶん定着してきており、活用が進んでいるので、その文言掲載を取り下げた。しかし、教員によって、ＩＣＴ機器に対しての得手不得手があったり、使用頻度が異なったりしていたことがあるため、今後、どこのクラスでも同じように使用するようにしていきたい。また、端末を持ち帰るような場合もあるので、再度、使い方のモラルに重点を置いた指導が必要だと考えている。

植木委員：「ぽかぽかルーム」の存在はとてもよい。そこへ登校してくる児童に対して、不登校の理由などを聴くことはせず、温かく見守るというスタンスであってほしい。異学年交流も助けになるだろう。交流の中で気を許して話せる相手が見つかるのではないか。子ども達同士のかかわりの中で、自立や自覚が育つであろう。

藤原委員：「ぽかぽかルーム」で過ごす児童はそれぞれである。終日、遊んで過ごす子もいれば、途中で勉強をしたり、自分のクラスへ行き、担任と話をしたりする児童もいる。共通しているのは、どの子も自分を見てほしい、話を聞いてほしいと思っているということ。支援員としての自分は先生でも親でも友だちでもないというポジションの大人としてみており、本音を言える、今の自分でいられる場所になっているようだ。ある児童は「ぽかぽかルームがあってよかった」とつぶやいていた。学校には行きたいけれど、教室には行けない。教室に行くけれど我慢しているという児童にとって、我慢せずにいることができる落ち着く部屋があることはよいことだと感じている。

櫻井委員：「ぽかぽかルーム」は悩んでいる子どもにとって、改善につながる場になる。その部屋で地域の人に遊びを教えてもらうということもやってほしい。

石井校長：地域の方々には、是非協力していただきたい。別室登校児童に限らず、様々な場面でお力添えをお願いしたいと考えている。

山﨑会長：ぽかぽかルーム」の環境整備について「第一の目標は登校すること」と示されているが、違和感がある。登校しようがしまいが、どこにいても「すべての子どもの学習権が保障されるインクルーシブな学校」を目指すということからすると、誤解を生じるのではないか。

児童に居場所を見つけさせる力を身に付けさせることも大事である。保健室や相談室など、児童の居場所づくりを総合的に考えてほしい。「きょうだいグループ」の話があったが、上級生が下級生の悩みを聞くという場面もあっていいのではないか。

児童が気軽に相談できる「場」や「人」を、どう整備改善していくかを考え、地道に取り組んでいってほしい。

志村副会長：「学校が楽しくない」と感じている児童についてだが、子どもたちは朝から疲れている。友だちや先生に気をつかっているのではないだろうか。敬語を覚えて遣い始めるのも早い気がすることからも、子ども達が周囲に気を使っている様子がうかがえる。家での自分と外での自分の使い分けに疲れてしまっているのではないか。せめて、家にいるときは素の自分でいてほしい。

藤原委員：子ども達が「キャラが疲れた」ということをよく言っている。家と学校それぞれで違うキャラクターで過ごしており、学校では気をつかって本来の自分ではない姿で過ごすために疲れるのではないか。

大矢委員：体力テストの結果が平均値を下回っていることについてだが、種目によって得意不得意があるのは仕方ないし、スポーツの習い事をしている、していないも結果に反映されていると思う。また、調査する年によっても結果が変わってくると思う。今の現状はよくわかった。

松本委員：「放課後はよく遊びますか」という質問の意図は何なのか。学校として、放課後は友達と遊ぶように指導しているのか。あまり遊んでいないという結果だが、どのように改善していくと考えているのか。

石井校長：この質問については、設問の用語を改善していく必要があるかどうかも含めて、来年度も継続して協議していく。

７　その他

植木委員：海老名市長選の際に、海老名は小中学校の教材費を市で負担していくという話であったが、柏ケ谷小学校では、教材費の未納者はどのくらいいるのか。また、市の負担はいつから施行されるのか。

姫野教頭：未納者は一人もいない。

石井校長：どの学年も、およそ一万円を上限にした金額に、各学年で必要になってくる教材（習字セットや絵具セット等）の金額を上乗せした金額を市が負担することになる。本決定は４月になる予定で、今準備を進めているところである。

山﨑会長：住居表示（番地）が変わるが、その影響や綾瀬市在住の児童を受け入れることなどの話は進展しているのか。

石井校長：東柏ケ谷１・２丁目は選択地域となり、自宅から近いという理由で東柏ケ谷小学校へ入学する児童がいる。一方で、綾瀬市の大上や寺尾台に住む４～５名が柏ケ谷小学校に入学する予定。ただし、海老名市外の家庭には教材費無償の適応外になるので、その影響がでてくるかもしれない。綾瀬市在住の方が各ご家庭で区域外通学を決定し、市役所に連絡をするので、学校としては、海老名市教育委員会からの連絡で入学児童を把握することになる。

８　事務連絡

〇令和６年度学校運営協議会の日程について

・第１回　令和６年５月 18 日（土）
・第２回　令和６年 11 月 22 日（金）
・第３回　令和７年２月 22 日（土）

〇第 60 回卒業証書授与式について

・欠席の場合は、学校まで連絡をお願いしたい。

・当日は、来賓者お一人ずつ紹介をさせていただく。

〇学校運営協議会委員の任期について

・今回で任期（２年）が終了。次期も是非委員としての継続をお願いしたい。

・様々なご都合により、継続が困難な場合は、お声掛けいただきたい。

・各自治会から１名委員として選出していただいているが、会長が委員を担うというきまりはなく、それぞれの自治会のご事情を考慮していただき、選出していただけたらと思う。

〇柏中学区学校運営協議会について

・２月 29 日（木）15:00 より　東柏ケ谷小学校で開催される。